ファイザー株式会社における中枢神経薬

ファイザー株式会社
クリニカル・リサーチ統括部
神経疾患領域部
クリニカルリーダー
三好　出

≪要旨≫

認知症、統合失調症、うつ病などの中枢神経系疾患は罹患数が多い分野です。その分野での医薬品の開発は疾患に苦しむ多くの方にインパクトがあり，やりがいが多い一方で、スティグマが存在する場合がある、治療による効果を測定するのが困難な場合があるなど多くの挑戦が求められる領域でもあります。

その中でも特に認知症は日本の人口が高齢化するにもかかわらず、治療に対する薬剤の貢献度が低く、かつ治療の満足度も低い疾患と指摘されています[1]。認知症をきたす疾患の中で最も多いのがアルツハイマー病ですが，アルツハイマー病の病態に関する科学の進歩が，認知症治療に対する強い期待に加わって、同治療薬の開発が世界中で精力的に進められるようになりました。その対象もコリンエステラーゼ・インヒビターのような症状を軽減する薬剤から進行そのものを遅らせることを目的とした薬剤の開発へと軸足が移っていっています。

ファイザーでもアルツハイマー型認知症の治療薬の認知症の開発を最優先課題の一つと位置づけ，海外で第３相試験が進行中の Dimebon (latrepirdine) [2] を筆頭に，様々な治療ターゲットに対する薬剤開発を進めています。薬剤の開発全般から弊社の開発における取り組みについて発表いたします。

---

[1] 政策研ニュース No.21 pp.1-4 2006 年 10 月 笹林幹生 「新薬の開発・上市と治療満足度の変化」

[2] 1: Lancet. 2008 Jul 19;372(9634):207-15 Effect of dimebon on cognition, activities of daily living, behaviour, and global function in patients with mild-to-moderate Alzheimer's disease: a randomised, double-blind, placebo-controlled study.Doody RS, Gavrilova SI, Sano M, Thomas RG, Aisen PS, Bachurin SO, Seely L, Hung D; dimebon investigators.

略　歴

三好　出（みよし　いずる）
E-mail: Izuru.Miyoshi@pfizer.com

1996 年　　広島大学医学部卒
1996-2001 年　広島大学医学部附属病院精神神経科
2001-2005 年　国立呉病院・中国がんセンター精神科/緩和ケア科
2005-2007 年　医薬品医療機器総合機構　新薬第三部　審査専門員、ICH チームメンバー
2007-2009 年　国立精神・神経センター病院治験管理室室長
2008-2009 年　国立精神・神経センター病院医局長
　　国立精神神経センタートランスレーショナルメディカルセンター
　　臨床研究支援室室長
　　治験管理室室長
　　ビジネス・ディベロップメント室長
2009 年-　　ファイザー株式会社クリニカル・リサーチ統括部
　　神経疾患領域部クリニカルリーダー（担当シニアマネジャー）